

学校教育目標	たしかな学び・あたたかい心・すこやかな体・ゆたかなかわり合い
目指す学校像	あいさつと笑顔があふれる、信頼と潤いのある学校

重点目標	1 「真の学力」の育成 (認知能力・非認知能力の双方を高め主体的に学び続ける児童を育成する) 2 多様な支援の充実 (心の居場所が実感できる学校づくりを推進する) 3 コミュニティ・スクールの推進 (家庭・地域と連携し児童のエンジェンシーを育成する) 4 安心・安全な教育の整備 (学校施設の老朽化に伴い、計画的な修繕および予算の適切な執行を行う) 5 働き方改革の一層の推進 (働きやすさと働きがい両立する職場づくりを実現する)
------	---

※重点目標は6つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目は複数設定可。
 ※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

達成度	A	ほぼ達成 (8割以上)
	B	概ね達成 (6割以上)
	C	変化の兆し (4割以上)
	D	不十分 (4割未満)

学びの質の向上に関する取組

子どもの発達や心のサポートに関する取組

地域とともにある学校づくりに関する取組

教育環境の整備に関する取組

教職員のキャリア形成に関する取組

学 校 自 己 評 価		年 度 目 標			年 度 評 価			学校運営協議会による評価	
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策	実施日	令和 年 月 日
1	○令和7年度全国学力・学習状況調査(国語・算数・理科)において、全国平均及び市平均と同程度の正答率であった。 ○令和7年度学校評価の結果では、学習に関するすべての項目において、地域・保護者の9割以上が肯定的に評価している。 ○児童は全体的に落ち着いており、行事や日常の学習に意欲的に取り組む姿勢が見られる。 ○ICT 端末の活用場面は増加しているが、教科のねらいに即した工夫・改善が必要である。	・児童の主体的な学びを実現する授業改善 ・非認知能力を育成する特別活動の実践	① 校内研修を通して課題を共有し、授業改善を推進する。 ② ICT 活用の提案授業や相互参観を年間3回以上実施する。 ①異年齢集団活動を通して非認知能力(人間関係形成力や社会参画力)の育成を図る。	○学びの指標 ・主体 R7 3.41⇒R8 3.5 ・ICT R7 3.26⇒R8 3.4 ○学校評価アンケート ・ゆたかなかわり合い R7 96%⇒R8 97%					
		・個々のニーズに合わせた支援体制の確立 ・心の居場所づくりの強化	① 家庭との連携を図り、安心して学校生活を送れる支援体制を整える。 ② 情報共有を徹底し、SC・SSW・外部機関と連携した組織的支援体制を強化する。 ①Solaの一むの活用状況を定期的に振り返り、運用方法や支援体制の改善を図る。	○心と生活のアンケート ・確実な実施と要面談児童への対応 ○学校評価アンケート ・教育相談 R7 97% ⇒R8 98% ○教育相談部会で定期的に振り返りを実施できたか。					
3	○家庭・地域との連携は良好であり、各種行事や日常の教育活動においても協力体制が築かれている。学校評価アンケートにおいても高い肯定的評価を得ている。 ○学校運営協議会における協議内容や提言については、その意義を踏まえつつ、教育課程や学校行事、日常の指導場面に具体的に反映させる取組をさらに推進していく必要がある。 ○児童が主体的に地域や社会と関わる機会を意図的に設定しさらなる充実が求められている。	・コミュニティ・スクールの一層の充実 ・PTAや育成会等との連携	①学校運営協議会の協議内容を教育活動に反映し、家庭・地域との協働の質を高める。 ②児童の参画や発信を通して、相互理解と参画意識の向上を図る。 ○地域人材や保護者の参画機会の拡充を図り、継続的な協力体制の構築を進める。	○学校評価アンケート ・家庭・地域と心が通い合う学校 R7 97% ⇒R8 98% ○CSへの児童参画1回以上 ○地域やPTA イベントと学校行事の日程を合わせる					
		・安全で安心な教育環境の維持・向上 ・計画的な予算執行	①教職員の安全点検の意識を高め、組織的な安全管理体制を強化する。 ②危険箇所は速やかに対応し、安全確保を徹底する。 ①事務職員と連携し、優先順位を明確にした計画的な施設整備を進める。	○安全点検の実施状況 年間を通して確実に実施・確認(実施率100%) ○危険箇所への対応 発見後、原則当日中に対応または応急措置を実施(対応率100%) ○計画的な設備整備のための打ち合わせ月1回以上の実施					
5	○働き方改革の取組を進めている中で、業務改善や効率化に対する意識は高まりつつある。 ○さいたま市立学校「働き方改革マスタープラン」では、教職員が成長を実感すること、信頼される組織であること、職場の心理的安全性の確保及び良好な労働環境の整備が示されており、教職員一人ひとりのWell-Beingの向上が子どもの幸せを保障する教育の実現につながると示されている。それを地域・保護者にも周知する必要がある。 ○働きやすさと働きがいの両立に向け、教職員一人ひとりの状況に応じたマネジメントが求められる。	・教職員が安心して働ける職場環境の整備 ・教職員のキャリア形成の促進	①教職員の専門性を生かした役割分担と協働体制を整える。 ②会議の精選とDX活用により、業務の効率化を図る。 ①人事評価面談を活用し、キャリアの見通しを共有し、個々の成長を支援する。 ②研修受講を奨励し、教職員のキャリアアップを図る。	○ストレスチェック集団分析結果 健康リスク 支援 (R7 80⇒R8 78) ○学校評価アンケート ・学び続ける教師 R7 100%⇒R8 100%					

学校運営協議会からの意見・要望・評価等